

第二期磐田市子ども・子育て支援事業計画(案)の意見募集について(結果)

- 1 意見募集期間 令和2年2月12日(水)～令和2年3月12日(木)
- 2 意見提出状況 2件 (1名)
- 3 意見概要とそれに対する市の考え方

No.	項目	意見内容	市の考え方
1	<p>・第6章 計画推進に向けて</p> <p>・26ページ「磐田市の課題」①、③について</p>	<p>不動産の視点からの意見を申し上げます。</p> <p>・少子化・人口減少が進む中で、他所から移住してもらうことは、地方の自治体共通の悩みです。同計画の中には子育ての主体である「親」に対する支援も多く盛り込まれています。</p> <p>・そこで、それらを「親を育てる磐田市」として、市の移住促進策と絡めて、「安心して住め、子育てもできる」、パッケージ化したプロモーションを提案します。</p> <p>・移住先で本当にやっていけるか不安に思うのは、子供ではなく親です。特にひとり親家庭であればなおさらです。その不安を押し切ってまで、親に移住を決断させるためには、「親を育てる支援が、磐田市にはある！」ということをアピールするのが、心にささるのではないのでしょうか。</p>	<p>本計画では、本市で子育てをする市民の皆様が、安心して子育てをすることができると思実感し、本市に住んでよかったと思っただけの施策を、幅広い分野で展開していきます。</p> <p>そうした本市の子育て支援施策については、これまで「子育て・教育なら磐田」として、本市の魅力の一つとしてPRをしてきましたが、ご意見にありますように、移住促進策と絡めていくことは定住人口獲得のために重要だと認識しておりますので、引き続き今後も取り組んでいきます。</p>

2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 64 ページ ⑦ファミリーサポートセンター事業 ・ 65 ページ ⑧-2 一時預かり事業（幼稚園型を除く） 	<p>○上記「親育て」、特にひとり親家庭、移住対策と関連して、親と空き家（不動産）を結びつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーサポートセンター事業等に空き家を活用してはどうでしょうか？空き家の活用方法がなく、困っている状況があります（この事業には賛成だけど、自宅を提供するのはイヤ…という人もいます。） ・移住希望者の不安の一つに【地域コミュニティになじめるか】があると思いますが、この使い方をすれば、不動産が地域コミュニティにマッチした状態で販売できるため、移住希望者に向けた「セールスポイント」になりますし、将来の人口減少対策、空き家対策にもなると思います。 ・また、このような事業を行う民間団体の支援、育成も打ち出すと、なおよいと思います。 	<p>ファミリーサポートセンター事業は、会員の相互援助を基本とした事業ですが、本市の場合、預かりの場として、会員の自宅以外にも子育て支援センターの利用も可能としており、現時点では空き家の活用は考えておりません。</p>
---	--	---	---